

## 藥學博士朝比奈泰彥君ノ漢藥成分ノ化學的研究ニ對スル 授賞審査要旨

古來支那及ビ我國ニ於テ用ヒラレタル藥用植物ハ種類甚ダ多ク其ノ諸成分ノ研究ハ獨リ藥學上重要ナルノミナラズ植物體ニ於ケル諸物質成生關係ヲ闡明スル上ニ於テモ極メテ重要ナリトス朝比奈泰彥君ハ故下山博士ノ遺緒ヲ繼ギ此ノ方面ノ研究ニ從事スルコト十余年發明セル所頗ル多ク其ノ業績ハ陸續トシテ藥學雜誌、化學會誌 Archiv Der Pharmazie, Chemisches Centralblatt 等ニ依リテ世ニ發表セラレ其ノ報文ノ數既ニ六十ニ垂々タリ今報文二篇已上ニ亘レル諸研究ヲ列舉スレバ左ノ如シ

- |                         |   |   |
|-------------------------|---|---|
| 第一、「アネモニン」ノ研究           | 八 | 篇 |
| 第二、ナギナタカウジユ(香薷而)揮發成分ノ研究 | 五 | 篇 |
| 第三、吳茱萸成分ノ研究             | 四 | 篇 |
| 第四、アヂサ井及甘茶成分ノ研究         | 五 | 篇 |
| 第五、ハクウンボク果實成分ノ研究        | 三 | 篇 |
| 第六、クソニンジン揮發油成分ノ研究       | 二 | 篇 |
| 第七、キバナオランダセンニチ辛味成分ノ研究   | 二 | 篇 |
| 第八、牽牛子成分ノ研究             | 二 | 篇 |

第九、「サントニン」ノ化學的構造研究

二 篇

第十、齊墩果皮中「サボニン」ノ研究

二 篇

第十一、龍膽成分ノ研究

二 篇

是等ノ外各一篇ノ論文十九篇アリテ延胡索、ゲンノシヨウコ、胡黃蓮、櫻樹皮等ノ成分ヲ檢索シ且ツ種々ノ化學反應及ビ合成法ニ就キテ論ズル所アリ前掲ノ論文中特ニ重要ナルハ第一乃至第四ニシテ左ニ其ノ要領ヲ略記セン

「アネモニン」ハ幾多ノ毛茛科植物ニ共通ノ成分ニシテ從來之ガ研究ヲ企テタル者アルモ終ニ其ノ化學的性質ヲ判明スルヲ得ザリシガ朝比奈君ハ數年ニ亘レル努力ノ結果種々ナル誘導體ノ檢數ト直接ノ合成トニ依リテ「アネモニン」ノ化學的構造ヲ餘蘊ナク決定シタルト同時ニ原植物中ニ存スル刺戟性物質「プロトアネモニン」ノ構造ヲモ明ニスルヲ得タリ

ヤナギカウジユ揮發成分ノ研究ニ於テハ「エルシヨルチャケトン」ト命名セル新物質ヲ發見シ多方面ノ審覈ニ依リテ其ノ化學的構造ヲ確定シ「フラン」核ヲ有スル化合物ナルコトヲ明ニシテ植物化學ニ重要ナル一新例ヲ加ヘタリ

吳茛菀成分ノ研究ニ於テ最モ貴重ナル成績ハ「エボチアミン」及ビ「ルテカルピン」ト稱スル二種ノ「アルカロイド」ヲ發見シテ其ノ化學的性質ヲ闡明シタルニ在リ即チ「エボチアミン」ノ變化シテ生ジタル「イソエボチアミン」ノ分解ニヨリテ「メチル」アントラニル「酸ト一種ノ新鹽基」「インドール」エチラ

ミル「トヲ得之ニ依リテ先ヅ」イソエボヂアミン」ノ構造ヲ究メ更ニ溯リテ原物質「エボヂアミン」ノ構造ヲ推定セリ而シテ茲ニ得ラレタル新鹽基ハ毒性少クシテ血壓ヲ高ムル力強大ナルヲ以テ將來廣ク藥用ニ供セラルベキ見込アルモノナリ「ルテカルピン」ノ構造モ亦「エボヂアミン」ニ酷似セルモノナリト推定セラレタリ

アヂサ井ノ成分ニ就キテハ嚮ニ下山博士ガ發見シテ「ヒドランゲノール」ト命名セシ物質ヲ一層詳細ニ研究シタルモノニシテ主トシテ加里熔融法ニヨリテ「オキシトリル」酸ト「Pオキシ」安息酸トヲ生ズル事實ニ基キテ其ノ構造式ヲ推定セリ而シテ其ノ「オキシトリル」酸ノ構造ハ別ニ合成法ニ依リテ之ヲ確メタリ甘茶ハアヂサ井ト近縁ノ植物ナルヲ以テ曩ニ丹波博士ニ依リテ研究セラレタル甘味成分「フィロヅルチン」ガ「ヒドランゲノール」ト密接ノ關係アルベキヲ思ヒテ探究ノ步ヲ進メタルニ果シテ其ノ「ヒドランゲノール」ノ「メチル」誘導體ナルコトヲ明ニスルヲ得タリ

右ノ外ハクウンボクノ果實ヨリ「スチラチット」ト命名セル新物質ヲ取り出シテ其ノ構造式ヲ決定シ又クソニンジンノ精油ヨリ新化合物「アルテミジアケトン」ヲ分離シテ其ノ構造ヲ究メタルガ如キ一々枚舉ニ違アラズ

朝比奈君ガ手掛ケタル植物ノ種類既ニ多ク其ノ發見セル物質ニハ鎖狀化合物アリ環狀化合物アリ「テルペン」族アリ配糖體アリテ其ノ研究ハ頗ル多様多岐ニ亘レリ而シテ少カラザル場合ニ於テ構造式ヲ確定スルコトヲ得タリ

抑モ構造式ハ化合物ニ於ケル諸原子連結ノ有様ヲ表スモノニシテ其ノ化合物ガ他物質ニ對シテ呈スベキ總テノ反應ト其ノ化合物ヲ合成スベキ方法トヲ簡潔ニ表出スルト同時ニ物理的性質及ビ生理作用ヲモ或程度マデ標示スルモノナレバ構造式ノ決定ハ有機化學者研究ノ最終目的ニシテ朝比奈君ガ幾多ノ物質ノ構造式ヲ確定シタルハ其ノ研究ノ徹底的ナルヲ示スモノナリ而シテ一物質ノ構造ヲ決定スルニハ三四乃至十數ノ誘導體ヲ造ルノ必要アルガ故ニ朝比奈君ガ合成セル新物質ノ數甚ダ多キハ言フ俟ズシテ明ナリ更ニ朝比奈君ノ研究ノ跡ヲ見ルニ恰モ囊中ノ物ヲ探ルガ如シ是レ固ヨリ其ノ學識ノ豊ナルト技術ノ巧ナルトニ因ルト雖モ亦所謂化學的直覺ノ殊ニ優秀ナルニ因ラズンバアラズ朝比奈君ノ研究事業ハ皆藥學教室ニ於テ成サレタルモノニシテ藤田穆君外二十餘名ノ門下生ノ協力ヲ得タリ是レ朝比奈君ガ良教師タル所以ニシテ研究者トシテノ同君ノ功績ヲ減ズルモノニ非ズ